

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立桐蔭高等学校 学校長名：笹井 晋吾

めざす学校像 育てたい生徒像	自ら人生を切り拓く人を育てる学校 改革への情熱と伝統を重んじる心を兼ね備えた生徒
本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 高い進路目標を実現させるための組織的かつ系統的な取組の充実及びキャリア教育充実深化に向けた具体的方策の構築
	2 主体的な学習姿勢の育成につながる教員の更なる指導力向上
	3 生徒の自主的・自律的な生活習慣の確立と生徒支援の充実及び生徒の主体的な活動を支援する取組の充実

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの「系」のカリキュラム上、運用上の特性を実効的に検証し、その改善と定着を図る。</li> <li>桐蔭FDによる授業改善を深化させ、教え込む授業から、自ら考えさせる授業への転換を図る。</li> <li>ICTを含む教育環境を充実させ、より効果的な教育体制を構築する。</li> <li>国際バカロレア導入をはじめとする、特色ある普通科としての在り方について組織的に調査、研究を進める。</li> </ul>
学校評価の結果と改善方策公表の方法	保護者に対して自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても広く公表する。

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					学校関係者評価		
重点目標					令和4年3月21日実施		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	生徒の多くは、文武両道を実践しようとする意志を持って入学してくる。しかし、自分の持つ才能や能力を十分に活かせる将来設計や、大学選びが出来ていない生徒も少なくない。特に2年生からの「系」選択により、自分自身の進路目標を明確にした必要な努力をするための学習集団は出来ているので、「系」の目的に対応した授業を実施し、必要な学力を身に付けさせる。3年生ではより強く受験を意識した「系」による授業を展開することでより高い目標に向かっての進路実現を目指す。また、すべての生徒のキャリア発達を促し、自ら考えさせていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のキャリア発達を促し、自らの進路実現に向けて意欲的かつ自立的に学習できるよう、具体的な取組が系統立てて展開されているか。</li> <li>社会に貢献できる社会人となるための、大学進学等に関わる情報提供などが、組織的・効果的に行われたか。</li> <li>「系」ごとの授業内容にそれぞれの「系」が目的とする差違はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経験」「思考」「発信」「振り返り」のサイクルによるキャリア発達</li> <li>興味ある学問と社会課題解決のための関わりを意識させる取り組み</li> <li>「進路だより」、LHR等による情報提供や生徒への継続的な働きかけ、状況に応じたオープンキャンパス、桐蔭総合大学等への適切な参加の啓発</li> <li>学年集会や面談等を工夫し、現状に応じて、生徒の自己分析と課題の発見を促し、高い志望を持ちあきらめさせないよう生徒を支援</li> <li>現職教育、進路検討会や成績分析会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の振り返り文章 R80 による自己分析と課題設定が出来たか</li> <li>「考える機会」の場面設定が出来ていたか。</li> <li>「進路だより」の内容と発行時期</li> <li>参加人数及び生徒への事後アンケート等による調査</li> <li>難関大学への出願者数120名</li> <li>進路アセンブリーの内容と持ち方、実施時期</li> <li>1年生、2年生の「系」選択検討会実施、3年生の進路検討会の実施</li> <li>FD会議等での情報意見交換会の実施</li> <li>授業テーマの設定方法と研究授業後の分析及び協議の在り方のベースを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>適宜、「進路だより」を発行し、情報提供及び進路意識の喚起に努めた。</li> <li>各学年とも進路アセンブリーを行い、進路意識を高めることができた。</li> <li>教職員向けに進路研修会を実施し、進路指導に関する情報提供ができた。</li> <li>今年度も感染症拡大防止の観点から保護者向け進路説明会は実施できず、案内などの配布での情報提供となった。</li> <li>コロナによるグループ協議などの活動が制約を受ける中、オンライン環境を活用した取り組みを実施した。個人個人の経験と振り返りについては機会ある毎に実施することが出来た。</li> <li>研究授業に関しては実施回数が不十分であったが各教科での検討会は実施でき改善の示唆は得られた。</li> <li>「系」の検討会は学年毎に実施でき、ある程度の形は出来つつある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学入試の多様化に伴い、こまめな情報提供や指導体制の見直しを行っていく。</li> <li>学校として一貫した進路指導を実施するため、教職員間の情報共有を進め、現職教育を実施していく必要がある。</li> <li>キャリア桐の葉の継続的な指導のため、これまでの教材を体系化して見直す必要がある。</li> <li>研究授業に関しては各教科毎の研究協議ありの研究授業を軸に各個人での取り組みの回数を増やすこと。</li> <li>「系」選択に係わって、生徒自身に自分の志望校と現状を考えさせ目標に向けた努力を具体化させる取り組みが必要</li> <li>FD会議により学校全体の目的の共有化や、課題に対する改善の方向性の共有化が必要</li> </ul>
	新たな普通科のシステム運用で出てくる課題に対して、FD キャリア教育推進部が核となり中高全体を巻き込んだ議論によるキャリア教育を核とした合意形成をしていくと同時に、授業改善のための研究授業について活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな普通科のシステムが有機的に機能しているか。</li> <li>中高一貫の具体的な検討が進んだか。</li> <li>「系」選択は生徒自身の意思決定で行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高職員による課題の提示と協議、合意形成、生徒学力の分析検証</li> <li>「学びの丘」と連携した授業に関する研究テーマの設定と分析についての協議会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD会議等での情報意見交換会の実施</li> <li>授業テーマの設定方法と研究授業後の分析及び協議の在り方のベースを作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期の開始時にコロナウイルス感染症の蔓延状況による分散登校があったものの、授業日数は確保され、定期考査もほぼ予定通り行えた。3学期はオミクロン株の感染拡大のため、各教科とも授業活動が制限された。結果、生徒にはより能動的、自主的に学習する態度を要求することとなった。オンラインでの授業配信も行い、コロナ禍の中での学習支援も行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、授業内での活動が制限されることが多く、生徒を多面的に評価する機会が少なかった。次年度より実施される新学習指導要領では、観点別評価で生徒を評価していく。学力支援プログラムや、夏期補習等で学力保障に努めながらも、評価のあり方を確立していかなければならない。</li> </ul>
2	高等教育機関への進学を希望している生徒に対し、その基盤となる知識・技能を定着させるだけでなく、応用力をつけることで変化する入試制度への対応力を養う。さらに、生徒に学習意欲や目的意識を持たせ、学習時間を増加させるとともに、主体的・能動的な学習態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>教え込む授業ではなく自ら考える授業を展開し、学習意欲や集中力を喚起する取り組みが各科目において展開されているか。</li> <li>生徒の実態把握に努め、実態に応じた指導がなされているか。</li> <li>教科の教員が全体として学習指導方法の改善に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生夏期補習の充実</li> <li>個別学習指導の充実</li> <li>学習支援プログラムの充実</li> <li>学年・教科等の連携による家庭学習時間確保の指導</li> <li>定期考査の分析および対策</li> <li>家庭学習の指導を踏まえた計画的な課題提示のための教科内外での情報交換協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種補習の総時間数の確保</li> <li>添削指導や個別指導、質問対応の実施状況</li> <li>実態調査にみられる家庭学習 2 時間未満の生徒の割合減少</li> <li>学年会・教科会での情報交換、協議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期の開始時にコロナウイルス感染症の蔓延状況による分散登校があったものの、授業日数は確保され、定期考査もほぼ予定通り行えた。3学期はオミクロン株の感染拡大のため、各教科とも授業活動が制限された。結果、生徒にはより能動的、自主的に学習する態度を要求することとなった。オンラインでの授業配信も行い、コロナ禍の中での学習支援も行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、授業内での活動が制限されることが多く、生徒を多面的に評価する機会が少なかった。次年度より実施される新学習指導要領では、観点別評価で生徒を評価していく。学力支援プログラムや、夏期補習等で学力保障に努めながらも、評価のあり方を確立していかなければならない。</li> </ul>
	生徒は概ね規律ある学校生活を営んでいるが、一部に遅刻、身だしなみの課題を残している。また、心の課題を抱える生徒への支援の要請が強まっており、欠席の多い生徒への早期対応が求められる。交通安全面では昨年度、自転車による事故が多数見られ、意識改善の必要性がある。生徒が安心して過ごす学校環境の維持といっそうの充実を図り、挨拶を皮切りに自ら踏み出すことへの積極性を育てる意識を職員共通のものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が自律的に行動し自己管理能力、危険回避力を高める支援のための重点項目としての、</li> <li>遅刻、下校指導</li> <li>交通安全指導</li> <li>身だしなみと持ち物の管理指導</li> <li>相談体制の組織化と効率化</li> <li>職員からの声かけ、挨拶の励行</li> <li>中高を一貫しての生徒指導が適正に行われているかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己責任の遅刻を5回以上繰り返す生徒への指導。</li> <li>日常的な身だしなみ指導。</li> <li>自転車事故防止に向け、警察等と連携した交通安全教室等の実施</li> <li>毎月の登校時の校外指導の実施。</li> <li>警察と協力しての自転車無施錠指導</li> <li>挨拶の意義の啓発</li> <li>教育相談体制の充実。</li> <li>生徒情報の共有と把握による生徒理解、並びに具体的な手立ての共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通年遅刻者数の増減と個々の事情の把握。</li> <li>警察やPTAと連携した交通指導</li> <li>交通事故の発生件数とその把握。</li> <li>駐輪場の施錠率及び使用状況。</li> <li>来校者など外部からの提言。</li> <li>カウンセリング室利用状況。</li> <li>ケース会議の実施状況。</li> <li>情報共有の具体的手立て。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では遅刻は少ないが、学年が上がるにつれその数は増加している。反省文を提出しているほとんどが3年生である。</li> <li>交通事故は毎月のように報告され、10件以上あった。</li> <li>駐輪場の施錠率は、昨年同様70%程度であった。</li> <li>教育相談においては、年間100回以上実施し、その都度ふり返りをおこない情報を共有することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍ということもあり、欠席や遅刻をする生徒が増えた。それに伴い、心の不安定な生徒が増加し指導しづらくなったが、心のケアも含め生徒に会った声かけをしていく必要がある。</li> <li>交通事故のほとんどは自動車の前方不注意などであったが、危機管理能力があれば防げたものが多く、かもしれない運転を心がけるように指導していく。</li> <li>今年度の情報や対応方法を参考に、次年度以降も速やかに対応していく。</li> </ul>
幅広い集団活動や体験活動において自主的、主体的に行動できている生徒も多い反面、指示があるまで待っている生徒も一定数いることが課題である。今後自ら課題を見つけ、行動していくことが出来る力を育成することが、重要になる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主的活動の時間が確保されているか。</li> <li>自主的活動のデータが適切に蓄積できているか。</li> <li>課外活動の案内を十分できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や各実行委員会の活性化と生徒が主体的に関わる校内行事計画と連携</li> <li>活動のためのLHRの時間確保</li> <li>部活動への積極的参加と主体的な活動支援</li> <li>「総合的な探究の時間」との連携</li> <li>ボランティア活動等の外部活動の案内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な時間確保と実施内容が適正であるか。</li> <li>自主活動時間数。</li> <li>部活動加入率100%以上</li> <li>学びのデータの蓄積量。</li> <li>校外活動の紹介数と登録状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内行事のほとんどが中止や延期また規模縮小になり、十分な活動ができなかった。校外活動についても同様に十分な案内ができなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種学校行事も、規模縮小や日程変更など臨機応変に対応していったが、不十分な点も多かった。この反省を次年度につなげていきたい。</li> </ul>	

学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>①2、3年生は先生を含めてコロナ禍の真ただ中で楽しい高校生活とは行かず、人知れず悩みがあったと推察できるが、卒業後も何らかの形で繋がりを持てるネットワークがあれば良いと考える。</p> <p>② コロナの影響もあるが、学年別、地区別懇談会がなかったのが残念。進路指導担当の先生のお話を聴く機会がなく、昨今の進学事情や本校における進学の傾向などの情報を得る機会がなかった。</p> <p>③これからの教育は、知識・技能の習得ではなく、自分で考え表現する能力を醸成することに重点が置かれることになるため、これまでの授業とは異なった授業が要請される。手始めに、一流といわれる大学の入試問題の中から上記能力を試していると思われる問題を抽出し、どのような教育をすれば対応できるのかを教員が実践的な観点で考えた上で、生徒に対して授業するのの一つのやり方であると思う。</p> <p>④不透明で何が起るかわからない時代だがその時の状況に対応出来る学校、臨機応変に行動できるような生徒育成をお願いしたい。</p> <p>⑤学校評価シート等を活用し、桐蔭高校における教育の根幹をなすものは何かを教職員間で共有認識し、さらに意欲的な教育実践を推進していけば、教職員のめざす学校、生徒や保護者の求める学校の実現に迫れるのではないかと。</p> <p>⑥学校評価シートで、「次年度への課題と改善方策」が示されているが、それに優先順位をつけて取組を進めていけば、さらなる教育実践の成果が期待でき、また、教職員の達成感にもつながるのではなか。</p> <p>⑦教職員の学校評価アンケートの質問事項6、7で「十分ある」と「まあある」の回答率の高さに、質の高い教育活動を推進する教職員集団という印象を強く持ち、大変心強く感じた。</p> <p>⑧近畿2府4県の代表的の中高一貫校(国公立校)の生徒達と、いくつかのテーマについてパネルディスカッション(オンライン)を実施すれば、自己の生き方や在り方について考える機会となるとともに、生徒の学習等への自主的・主体的な態度の育成につながるのではないかと。</p>
-------------------	--